教育施設などから発生する音に関する研究
その２長野市民を対象とした予備アンケート調査

長野工業高等専門学校　学生会員　○宮嶋和哉
長野工業高等専門学校　学生会員　　内山翔太
長野工業高等専門学校　正 会 員　　西川嘉雄

１．はじめに

今まで好意的に扱われていた公園などで遊ぶ子供の声が近年騒音と受け止められる事が増えてきている。

当研究室では教育施設（保育園、幼稚園、小･中学校）の音環境を把握するために、教育施設、役所、そして市民を対象に音環境に関するアンケート調査を実施している。

本報告では、予備調査として長野市民を対象にアンケートを実施したので、報告を行う。

２．調査方法

長野市･松本市･上田市で各 1000 件を対象にアンケート調査を実施する予定である。世帯数を考慮し抽出した 50 の地域それぞれに、設定した 20 件に配布する。

アンケートの配布は、直接住宅を訪問し手渡しで行った。この時、不在の場合はポストに投函した。また、アンケートの回収期間は約 2 週間とした。

予備調査として長野市の市街地にある 10 地域 200 件に実施した。

アンケートの配布･回収状況を表-1 に、アンケート項目を表-2 に示す。項目としては、音響学会のアンケートを参考に設定した[1)2)]。構成としては、Ⅰは回答者の住んでいる地域について、Ⅱは周辺からの音について、Ⅲは回答者の属性について、Ⅳは回答者の住居についてそれぞれ配置した。アンケートの内容は、教育施設が騒音と捉えられない様に配慮し[3)]、教育施設がうるさいと感じるかという直接的な質問は、設定していない。

表-1　アンケート配布･回収状況

配布数	回収数	回収率
200	96	48.0%

表-2　音環境に関するアンケート項目

Ⅰ	お住まいの地域について	5 項目
Ⅱ	周辺からの音について	5 項目
Ⅲ	あなたご自身について	11 項目
Ⅳ	お住まいについて	3 項目
その他	自由記述	

（大問 4 項目、付随する小問 24 項目、その他の全 25 項目）

３．アンケート結果

3-1 回答者について

図-1 に回答者の年齢を示す。結果としては 60 歳代の 39%が最も多く、70 歳以上の 35%がそれに次いでいて、60 歳以上を合わせると 74%と多かった。

図-2 に「騒音問題に起因した事件で、覚えているニュースはあるか」という設問の集計結果を示す。回答者の内よく覚えている(7%)･覚えている(37%)となり、合わせて 44%と、およそ半分は騒音問題に関するニュースを覚えていた。これに、なんとなく覚えている(32%)を加えると 75%になる。

図-3 に「近くの施設や家から声が聞こえてくるのはある程度仕方ないことだと思うか」という設問の集計結果を示す。思う(32%)･まあ思う(53%)となり、合わせて 85%は近隣からの騒音に対して寛容的である。

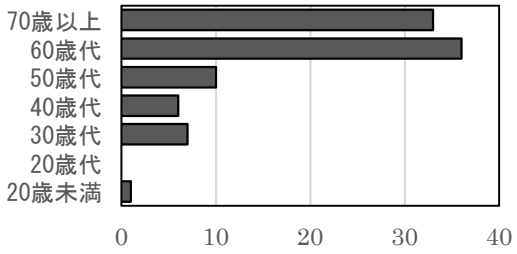

図-1 回答者の年齢

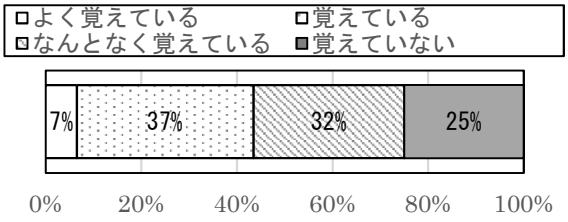

図-2 騒音問題に起因した事件で、覚えているニュースはあるか

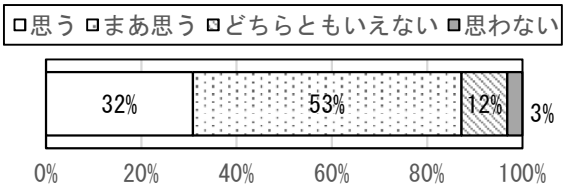

図-3　近くの施設や家から声が聞こえるのはある程度仕方ないことと思うか

3-2 周辺の音環境とその対策

図-4 に「自宅から音が聞こえ、悩まされるか」の結果を示す。幾つかの音を挙げ、「聞こえるし悩まされる」「聞こえないが悩まされると思う」「聞こえるが気にならない」「聞こえないが気にならないと思う」の四択で回答をして頂いた。

実際に聞こえて、悩んでいる音は「宣伝カーの拡声器」が最も多かった。聞こえる聞こえないに関わらず悩まされる人は「自動車」「幼稚園･保育園」「小･中学校」「高校とその他学校」「子供の声」「楽しげな話し声」では少なかった。

図-5 に「その音で迷惑を受けたとき、どのようにしたいか」（複数選択式）の結果を示す。「我慢する」は、実際にしたことがある数が多い。それに対して「直接文句を言う」をはじめとした他の項目には、そうしたいと思っているが、実際にしたことがあるのは少なかった。ここから多くの人が注意などをしたいと考えているが我慢をしていることが考えられる。

3-3 隣接した土地における公共施設の建設計画

「仮に、家の隣に公共施設の建設計画が起こったらどうするか」という設問の結果を図-6 に示す。歓迎するが最も多かったのは図書館の 26%だった。また、反対意見が最も見られたのが消防署の 29%であった。

保育園･幼稚園は 11%、小･中学校は 7%と、これらも無視出来ない程度の数だった。また、図書館と病院以外はいずれも歓迎する人は少ないことが分かった。

4．まとめ

長野市における予備配布を行った 200 件については、教育施設から発生する音に悩む人はあまり居ない事が分かった。また、建設計画が起こった時に反対をする人は少ないが無視出来ない程度の数が居た。今回の結果を元に、アンケート方法や内容の検討を行い残りの地域のアンケート調査を行っていく予定である。

謝辞

アンケートにご協力いただいた関係者に感謝の意を表します。本研究は JSPS 科研費 16K06627 の助成を受けたものです。

参考文献

1) 調査研究委員会報告,音環境に関する調査票改訂版の提案,日本音響学会誌,弟 62 巻,第 4 号, pp ． 351 −356 351
2) 難波精一郎・桑野園子，音の評価のための心理学的測定法,コロナ社, pp.201-217(1998)
3) 日本建築学会編,住まい街をつくるための調査のデザイン,オーム社（2011.3）

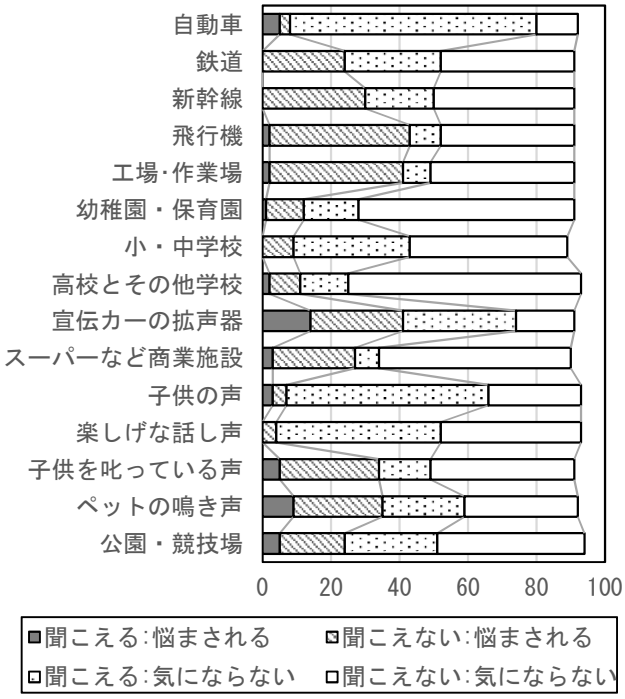

図-4 これらの音が近隣所から聞こえるか、また、それに悩まされる事があるか

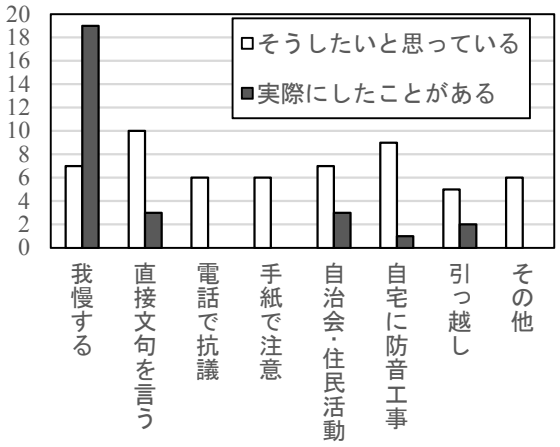

図-5 その音で迷惑を受けたとき、どのようにしたいか

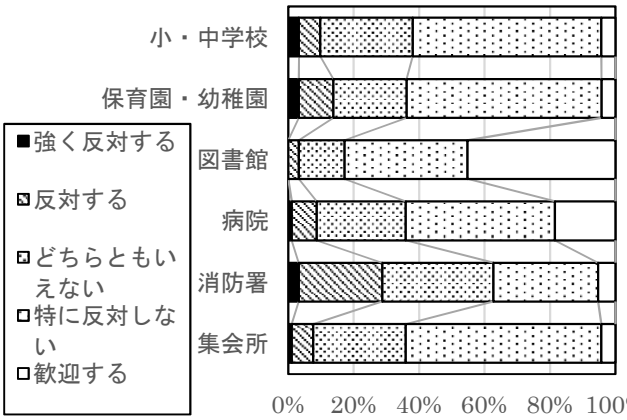

図-6 隣接した土地における公共施設の建設計画が起こった場合どうするか